

ニュース 松山の子どもたちが「ぼうさい探検隊マップコンクール」で入賞

昨年8月、小学生を対象に実施した防災教室「松山地域ぼうさい探検隊コスモスロード」で作成した防災マップが、第7回ぼうさい探検隊マップコンクールで「ぼうさい探検隊賞」を受賞しました。

このコンクールは、子どもたちが楽しみながら防災、防犯、交通安全に関する施設や設備などを見て回り、身の回りの安全・安心を考えながらマップにまとめ発表した作品を表彰するものです。

今回は、全国317の学校・団体から1607点が寄せられ、入選したのはわずか15作品。昨年の三本木小学校に引き続き、2年連続で大崎市の小学校が選ばれました。

松山小学校の子どもたちは、街を歩いたり地域の人たちにインタビューを行って、危険な場所をまとめてオリジナルな防災マップを完成させました。



◀1月22日、児童の代表として松山小学校6年の佐藤広崇さんと、指導者の古川消防署松山派出所の遠藤博樹さんが、東京で行われた表彰式に参加しました。

ニュース フード・アクション・ニッポンアワード2010に大崎市が入賞

農 林水産省が実施している「フード・アクション・ニッポンアワード2010」で、大崎市の「大崎大豆プロジェクト」が入賞しました。

この賞は、食料自給率向上に向けた活動「フード・アクション・ニッポン」の一環として創設され、食料自給率向上に貢献する事業者・団体などの取り組みを募集し、優れた取り組みを表彰することで、私たちや未来の子どもたちが、食べ物を安心しておいしく味わえる社会の実現を目指すものです。

大崎大豆プロジェクトは、本市が日本有数の大豆生産地という特性を生かし、大崎ブランドを創造していくための取り組みです。内容は、①大崎市産大豆での特産品開発②飲食・宿泊業における大豆料理の普及③大豆の体験型観光商品の開発④体の内外から癒す「大豆湯治」⑤大豆栽培での食農教育などです。

大崎大豆プロジェクトのほかに、市内では、和膳きたはまの「身体に大豆（大事）な宝御膳」も入賞しました。



▲身体に大豆（大事）な宝御膳

農林振興課 ☎23-7090

ニュース

おおさきの魅力を写真で伝える
第2回おおさき観光写真コンテスト審査結果

大崎市内の風景や行事などを題材とした写真を通して、大崎の魅力を再発見と新たな観光資源の発掘につなげる「第2回おおさき観光写真コンテスト」の審査会が、2月16日に行われました。

テーマは「宝の都（くに）・おおさきの「四季」・「まつり」です。応募された作品は141点あり、厳正なる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作5点、特別賞5点が選ばれました。最優秀作品と、優秀賞作品をご紹介します。なお、応募された作品は、3月1日から5月10日までJR古川駅と鳴子温泉駅で展示します。

観光交流課 ☎7097



▲最優秀賞
撮影者 大場 直喜さん（大崎市鳴子温泉）
画題 紅葉真っ盛り
撮影場所 大崎市鳴子温泉鬼首（地獄谷）
講評 地獄谷と木漏れ日のバランスが絶妙である。今までの観光写真コンテストにはない構図の作品。



▲優秀賞
撮影者 田中 偉郎さん（仙台市青葉区）
画題 SLファンたち
撮影場所 大崎市鳴子温泉（鳴子御殿湯駅付近）
講評 SLを見ている人とのバランスが取れていて、にぎわいがよく表現されている。



▲優秀賞
撮影者 佐藤 裕康さん（色麻町）
画題 大将と愛馬
撮影場所 大崎市古川（古川秋まつり）
講評 馬引きの表情にやさしさを感じられ、構図、バランスが優れている。

※実際の写真はカラーです。

【オープニング】 13時～13時15分 劇団いだますいによる寸劇

【第1部】 13時15分～14時40分 基調講演、事例発表

基調講演 「バイオマスをめぐる情勢について」（農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課バイオマス推進室長 深水 秀介 氏）

事例発表 ①東北大学と大崎市の連携事業について（東北大学大学院農学副研究科長教授 中井 裕 氏）②木質バイオマス事業への取り組みについて（YKK AP ㈱東北事業所環境施設管理室長 瀬川 典雅 氏）③廃食用油の市民回収について（おおさきバイオディーゼル燃料地域協議会事務局 ㈱千田清掃 代表取締役社長 千田 信良 氏）④蕪栗沼の保全とヨシベレット事業について（NPO 法人蕪栗ぬまっこくらぶ 木下 今日子 氏）⑤環境保全型農業への取り組みについて（全国環境保全型農業推進会議委員 佐々木 陽悦 氏）

【第2部】 14時40分～15時 五感で楽しむエコライフ展

ナタネ搾油実演、ナタネ油・ひまわり油・ドライフルーツの試食、ペイントコーナー（マイバッグ、エコデコイ作成）、展示コーナー

【第3部】 15時～16時15分 講演、意見交換

講演 「未来の大崎市への提言」（国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティングユニット所長 あん・まくどなるど 氏）

意見交換 「バイオマスタウンおおさきに向けて」（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所バイオマスタウンアドバイザー 清水 夏樹 氏）

産業政策課自然共生推進係 ☎22281
申込 3月15日（火）まで電話で申し込み
定員 100人
会場 芙蓉閣（古川駅前大通）
日時 3月19日（土）13時～16時15分

会場では、廃食用油を回収します。使用済油容器などに入れ、会場内の回収ボックスに入れてください。

催し

バイオマスシンポジウム in おおさき2011

自然と共生した循環型社会を目指すため、生ごみや木くずなどから生まれる再生可能な有機性資源「バイオマス」について、一緒に考えてみませんか。